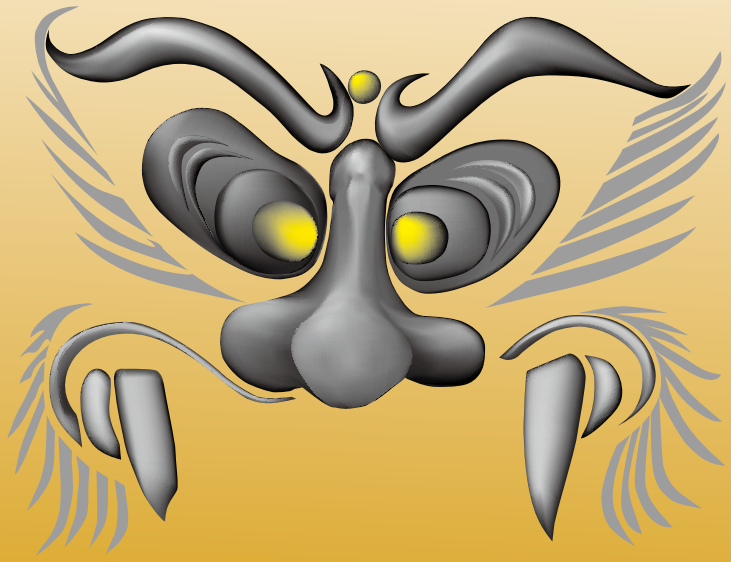
愛知県埋蔵文化財センター埋蔵文化財展
稲沢市制50周年記念事業埋蔵文化財展

A.D.775 巨大台風 尾張国府・国分寺を襲う

―瓦が語る尾張の国プロジェクト　尾張国中島郡の古代災害史をひも解く―

期間　平成20年10月18日（土）～平成20年11月16日（日）

会場　稲沢市荻須記念美術館



Stage01

災害史を読む

大地に残る災いの記録

濃尾平野には多くの遺跡・遺物が埋没しています。たくさんの土器や建物の跡、井戸、溝、貝殻、石器等々。これらはすべて人々の営みの痕跡です。調査の過程では、時として自然の猛威と戦った痕跡を見つける事があります。

弥生のムラを襲った洪水

濃尾平野に位置する弥生時代の集落は、しばしば洪水に襲われていたようです。

朝日遺跡（清須市ほか）では、弥生時代中期の終り頃に、広い範囲に砂の層が広がったことがわかっています。河川や溝の位置等から洪水によって運ばれた砂と考えられています。

また平野の北部、一宮市の猫島遺跡では、集落を巡る溝が洪水によってうまり、その後、再度溝を掘り直し、堤を高くして水害に備えた様子が発掘調査によって確認されました。こうした弥生人の知恵に驚くとともに、濃尾平野の厳しい自然と立ち向かう猫島ムラの人々がしのばれます。

▲ A.D. 775 巨大台風　尾張国府・国分寺を襲う

尾張国の災害と飢饉

713 11. 1　尾張・三河国などで風害。

726 12.24　尾張国で飢饉。

762　3.29　三河・尾張など9か国に日照りの被害。
　　4.14　尾張国で飢饉。
　　6. 3　尾張国で飢饉。
763　6. 7　尾張国で飢饉。
　　9.21　尾張国など6カ国に凶作。

765　3.16　尾張・三河などの諸国で飢饉。

767　1.28　尾張国で飢饉。
769　8. 9　尾張国海部・中島二郡に洪水。
　　9. 8　洪水により縞沼川(木曽川)の河道が変化し、尾張の葉栗・中島・海部の三郡が被害を受けた。尾張国の申し出により、土木工事を指導する技術者(解工使)が都から派遣され、河道復旧工事をすることが許された。

772　9.20　尾張国で飢饉。
773　2. 7　尾張・志摩二か国で飢饉。
774　2.30　尾張国で飢饉。
　　7.21　尾張国で飢饉。

775　8.22　伊勢・尾張・美濃国の三か国が異常な風雨により、300人あまりの人々と、牛馬1000頭あまりが流された。国分寺や寺などの塔が19施設で倒壊した。官人や個人宅は数えきれない被害を受けた。国から使者を派遣し、使者は斎宮の修理と諸国の被害状況の調査をする。

789　4.19　尾張・三河・美濃国が凶作。

796　7.19　尾張国で飢饉。

802　9. 3　尾張・三河国など31か国が不作。
805 12. 7　天災のため、尾張国などが凶作。

836　3.20　尾張国で飢饉。
837　3. 7　尾張国に水害。

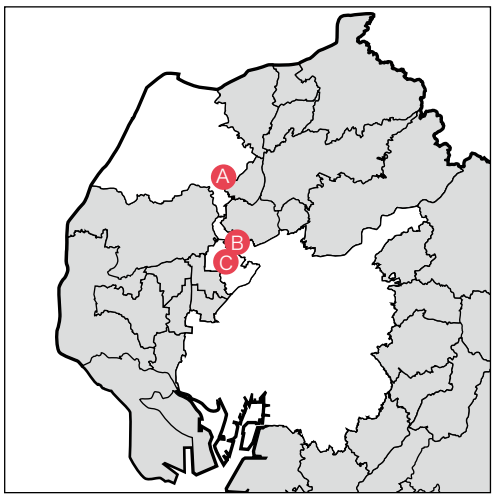
843　6.25　尾張・三河など十八か国で飢饉。

854　2.15　尾張国、河川氾濫による水害。

865 12.27　尾張国の申し出により、広野河(木曽川)の河口を掘り、もとの流れに戻した。
866　4. 7　尾張国で飢饉。
　　7. 9　尾張国が進めていた広野河河口の工事を美濃国各務・厚見二郡の郡司らが妨害し、死傷者がでた。太政官は、郡司らを捕え死傷者数を報告するよう命じた。「広野河事件」
　　7.20　広野河の工事をしばらく停止するよう、太政官が尾張国司に命じた。
　　7.26　広野河の工事を妨害し人夫を殺害した郡司らを取り調べるよう、太政官が美濃国司に命じた。

872　4.19　尾張国の昨年日照りの被害報告がある。

884　8.26　尾張国分寺が焼損したので、愛智郡の願興寺を国分寺にした。



▲災害の痕跡が見つかった遺跡

A：猫島遺跡（一宮市）
B：朝日遺跡（清須市ほか）
C：清洲城下町遺跡（清須市）

■文字に残る災いの記録

『続日本紀』などの古い文書を読み解くと、数多くの災害の記録が残されています。風水害という言葉の他に、飢饉や不作というものもあります。言葉は変わりますが、いずれも自然の猛威に立ち向かった人々の記録です。

▲稲沢市内の水害

写真は昭和46年8月23日の台風23号による被害の様子です。上の写真は堤防を越える水です。撮影場所は不明です。下の写真は稲沢市国府宮町（現在の国府宮二丁目）名鉄国府宮駅東です。

Stage02

弥生 一色青海ムラ

大型建物の風景

一色青海ムラには豊かな文化が息づいていました。ムラの中央には、遠くからみても目印になるような、巨大な建物の痕跡が見つかりました。東日本では最大級です。ほかに大型の竪穴住居が数棟確認できました。また焼失した建物跡が数多く認められ、使用していたと思われる土器類もそのままの状態で出土しています。様々な地域の土器がみられることから、いろいろな土地の人々が、この大きな建物を目印に立ち寄ったのかもしれません。

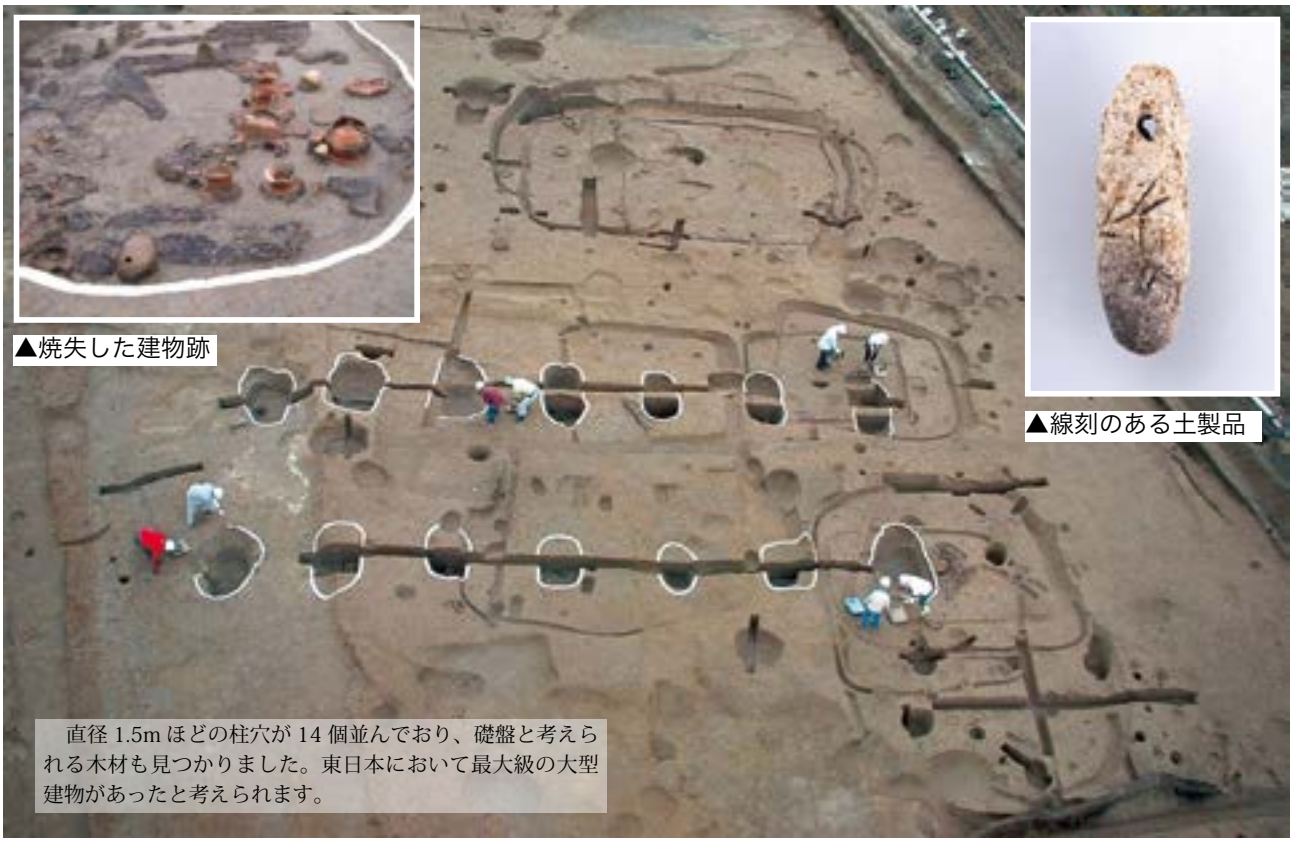
【野口・北出遺跡】（稲沢市井堀野口町）と【一色青海遺跡】（同市平和町）

２つの遺跡では、弥生時代中期を中心とする集落跡が確認できました。野口・北出遺跡と一色青海遺跡の間には、旧河道と思われる大きな溝状の地形が存在します。なお弥生時代前期の遺物が確認されています。

▲野口・北出遺跡の方形周溝墓

▲大型建物復元 CG

▲遺物出土状況（一色青海遺跡）



▲焼失した建物跡

▲線刻のある土製品

直径 1.5m ほどの柱穴が 14 個並んでおり、礎盤と考えられる木材も見つかりました。東日本において最大級の大型建物があったと考えられます。

▲大型建物跡の検出状況 (一色青海遺跡)

Stage03

赤い土器

神への捧げもの

弥生時代の後期から古墳時代にかけて、「赤い土器」が誕生します。土器の外側をベンガラで赤く塗るだけではなく、緻密な細かい模様をつけたり、飾りをつけたりします。この端整な形から、パレススタイル土器とよばれています。

「赤い土器」は、長野県や福岡県等などの他地域でも出土しますが、これほどまでにデザインされた土器は、他にはありません。

堀之内花ノ木遺跡や陸田白山遺跡では、このパレススタイル土器がまとまって出土しています。住居地のような生活に関わる場所ではなく、「祭り」や「祈り」に関わる場面で使われたのかもしれません。

【堀之内花ノ木遺跡】

（稲沢市堀之内町）

1991年度に発掘調査が行われた堀之内花ノ木遺跡から、パレススタイル土器が一つの土坑からまとまって出土しました。この遺構は、集落よりやや低い地点にあり、この地点から東側に耕地が広がっていたと考えられます。

【陸田白山遺跡】

（稲沢市子生和溝師町）

2003年度に発掘調査が行われた陸田白山遺跡でも、パレススタイル土器がまとまって出土しました。パレススタイル土器は壺ばかりでした。この陸田白山遺跡は、弥生時代の終りから中世にかけての遺跡です。

▲パレススタイル壺　（堀之内花ノ木遺跡と陸田白山遺跡から出土）

Stage04

尾張国分寺

国府と国分寺

六四五年大化の改新を契機に全国に国・郡・里が置かれ、国の中心に国府が置かれ、中央から派遣された国司が政治をおこなっていました。

尾張国の国府は中島郡にあったとされますが、詳細な場所については記録がなく、次の候補地が考えられています。

①稲沢市国府宮・松下
②稲沢市下津町国府
③稲沢市稲島町東畑廃寺付近
④稲沢市長野塔の越遺跡

また、国府自体が移動した可能性も指摘されています。この内①が最有力ですが、これまでの調査成果から平安時代中期以降の後期国府と言えます。③の東畑廃寺は、塔は東、金堂は西に並立する法起寺式伽藍配置を持つ七世紀後半の寺院で、出土の塼仏から豪族の氏寺ではなく、官寺的な性格が強く、国府付属寺院と思われます。④の塔の越遺跡では瓦塔や硯の出土や掘立柱建物の検出など官衙的な性格が見られます。

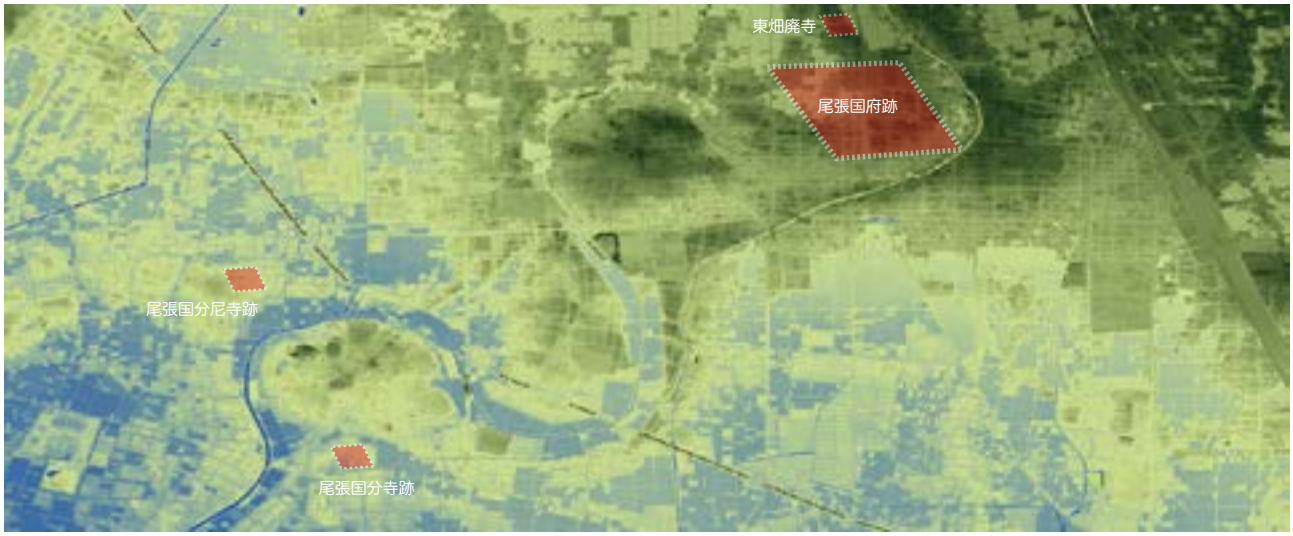
奈良時代の中頃、嵐や日照りで飢饉が起きたり、地方で反乱が起こったりしたので、聖武天皇は、仏教によって国を守ろうと考え、天平十三年（七四一）各国に国分寺と国分尼寺を建てること

▲白色陶質土器と銅銭
（尾張国府跡出土）
◎稲沢市指定文化財

【東畑廃寺跡】
（稲沢市稲島町）

国府推定地の北側にある東畑廃寺跡の発掘調査では、金堂の基壇や講堂の柱列が確認されました。出土遺物から、７世紀の終り頃に創建されたと考えられます。

▲短頸壺
（塔の越遺跡出土）



▲尾張国府推定地周辺鳥瞰図　現在の標高データをもとに作成した鳥瞰図です。旧三宅川の蛇行した河道や自然堤防等の微高地がよくわかります。尾張国府や、尾張国分寺がやや高い微高地に存在している事がわかります。

を命じました。しかし、各国ではすぐに建てられることは少なく、尾張国分寺の確実な存在を示す記録は、神護景雲三年（七六九）の鵜沼川（木曽川）が氾濫し、葉栗・中嶋・海部の三郡が被害を受け、下流にある国府や国分二寺も危険であると奏上されたものです。その跡地は稲沢市矢合町の南部に位置し、これまでの発掘調査で、講堂・金堂・中門・南門が南北に一直線に並び、塔は脇に置かれる東大寺式（国分寺式）の伽藍配置となることが確認されました。記録では、元慶八年（八八四）尾張国分寺が焼損したため、愛智郡定額寺願興寺に機能が移ったとされます。

災害記録と発掘調査成果との関連は、①宝亀六年（七七五）の異常風雨で、国分寺をはじめ諸寺院の塔など十九が破損した記録と、寺域の西端を示す南北の溝から八世紀末の須恵器と軒丸瓦・軒平瓦が出土したことが一致します。②元慶八年（八八四）の焼損記録と、推定南門付近の溝上に掘られた井戸の枠の固定に火を受けた瓦と九世紀末の灰釉陶器が出土したことが一致します。

なお、尾張国分尼寺は、稲沢市法花寺町に推定されますが確証はありません。

▲尾張国分寺跡出土鬼瓦（稲沢市矢合町）
◎愛知県指定文化財
所蔵：一宮市妙興寺　　写真提供：名古屋市博物館

▲軒丸瓦出土状況（東畑廃寺跡）

▲尾張国分寺跡出土の瓦
（稲沢市矢合町ほか）　尾張国分寺跡の発掘調査は昭和36年から平成20年度にかけ、12回の発掘調査が行われました。

Stage06

原米吉コレクション

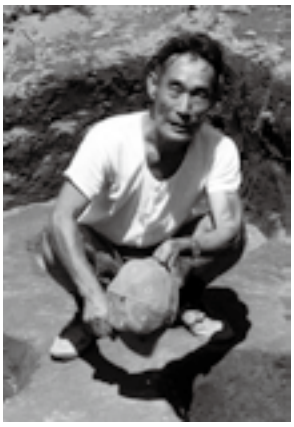
■文化財保護のパイオニア

故原米吉氏は元国鉄職員で、蒸気機関車に乗務し、昭和四十三年に定年退職されました。稲沢市内では昭和四十年代に市内各所で区画整理事業が実施され、多くの遺物の発見が伝えられていましたが、当時は埋蔵文化財に対する意識が薄く、それに対しての理解が得られず、多くの遺物が散逸しました。

埋蔵文化財に興味をもった当時稲沢市駅前在住の原氏は、この状況を大変憂い、熱心に市内各地を踏査し、資料の収集に努めるとともに、多くの遺跡を発見しました。

昭和四十五年稲沢市文化財保護審議会委員に委嘱され、昭和五十一年には、稲沢市の文化振興に尽力された功績に対し、公益功労者として稲沢市より表彰されました。その後、昭和五十六年度から平成元年度まで文化財保護審議会委員を務めました。平成三年十一月十九日永眠されました。

原氏のコレクションは、稲沢市長野の塔の越遺跡が主体ですが、国府宮・松下（以上尾張国府跡）、高御堂、下津町北丹波遺跡、青木川など広範囲に及んでいます。原氏の収集方法は、土器の形がわかるものだけではなく、細かい破片まで丹念に採集し、その状況を記録しました。採集品は根気良く丁寧に洗浄し、乾燥後ボンドで接合し、足らない部分を石こうで復元するという本格的な遺物整理の方法をとっていました。そのコレクションの一部は名古屋市博物館・一宮市博物館の所蔵となり、残りは原氏の没後、ご遺族により稲沢市へ寄贈されました。稲沢市の埋蔵文化財保護のパイオニアと言える人物です。



▲原　米吉さん
昭和 52 年 8 月稲沢市国府宮町（現在国府宮 1 丁目）の発掘調査現場にて撮影

▲長頸瓶（ちょうけいへい）（北島町出土）
所蔵：名古屋市博物館

▲Ｓ字状口縁台付甕
（塔の越遺跡出土）

埋文展新キャラクター「鬼板」さま

埋文展キャラクター「くろまろ」くん

稲沢市マスコットキャラクター「いなッピー」

愛知県埋蔵文化財センター埋蔵文化財展・稲沢市制 50 周年記念事業埋蔵文化財展

A.D.775　巨大台風尾張国府・国分寺を襲う

―瓦が語る尾張の国プロジェクト　尾張国中島郡の古代災害史をひも解く―

平成 20 年 10 月 18 日～平成 20 年 11 月 16 日

編集　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
印刷・発行　稲沢市教育委員会生涯学習課